

ニホンナシ「凜夏」、「あきづき」における 新樹形の開発



写真1 現在の新樹形の様子(2019年12月時点(せん定後))



写真2 一文字整枝法(対照区)の様子



写真3 収穫作業時間の調査の様子

果樹試験場では、樹勢が強く、花芽の着生が悪い「凜夏」、「あきづき」において、樹勢のコントロールが容易で花芽の着生が良い樹形を検討しています。

樹勢の強い「凜夏」、「あきづき」は従来の2本主枝整枝法では主枝の基部付近から長大な徒長枝が発生するため、主枝先端が衰弱する、花芽が着生しづらいという問題を抱えています。そこで、この2品種において樹勢のコントロールがしやすいように主枝を上空から見てU字のよ

うに配置し、主枝の基部付近には枝を配置しない樹形を考案しました。主枝基部付近の枝を芽かきすることで、長大な徒長枝の発生を防ぎ、養分が主枝先端まで行き渡り、主枝先端の衰弱を防ぎます。

現在、定植4年で主枝はほぼ目標の長さ
に到達しており、順次、結果枝を配置
できれば、樹形完成となります。今後は
花芽着生や作業時間などについて調査を
行っていきます。

(果樹試験場 松島弘明 088-844-1120)